

# 日韓トンネル通信

編集/発行

特定非営利活動法人  
日韓トンネル研究会本部事務局：東京都港区麻布台1-1-20  
〒106-0041 麻布台ユニハウス513  
TEL 03-3589-4188 FAX 03-5570-1634  
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：0120-09-1631

## 【報告】新会長に野沢太三氏(工学博士) が就任しました。

東京本部の第3回総会で野沢太三顧問が新会長に選任された。



野沢太三氏(73)は1956年、東京大学工学部土木工学科を卒業後、日本国有鉄道に入社し、大阪鉄道管理局施設部長、長野鉄道

管理局長、本社施設局長を歴任。一貫して技術畑を歩んだ。1986年7月、参議院議員選挙で自由民主党公認で出馬し初当選。当選後、北海道開発政務次官を出発点に、参議院では外務委員長、決算委員長を歴任。2002年10月、参議院憲法調査会会長に就任。2003年9月22日、小泉再改造内閣で法務大臣に就任。同年11月に再任され、2004年9月27日に法務大臣を退任した。現在、自由民主党政務調査会参与、社団法人日中科学技術文化センター会長、日本モンゴル親善協会名誉会長。

当研究会では昭和62年に参与となり、昭和63年に顧問、平成17年に常任顧問に就任した。工学博士。技術士(建設部門)。

## 【就任挨拶】

野沢太三でございます。十数年前から顧問の立場で勉強させて戴きましたが、このたび高橋会長をはじめ、関係する皆様のご推挙をいただき、今日の総会をもちまして会長の重責を担うことに相成りました。高橋前会長は国鉄時代からはトンネル関係の仕事をご一緒した大先輩であり、研究のチームリーダーでもありましたが、これからは高橋会長には是非高い立場からのご指導ご鞭撻をよろしく願います。

私は国鉄時代を中心にトンネルをいくつか掘った経験もございますが、昭和61年の衆参同日選挙戦で参議院に送っていただきましてから新幹線の仕事などをやって参りました。新幹線は現在、東北、北海道、北陸、九州と5線にわたって最盛期にはいっております。これを完成させた暁には次なる課題はこの日韓トンネル建設の着手であると考えております。現在、わたしは自由民主党政務調査会におきまして整備新幹線等の鉄道調査会の参与という役目を拝命しており政策提言が出来る立場におります。そこで何とでも本トンネルが具体化するよう知恵を絞ってまいりたいと思います。

超党派で結成しております日韓友好議員連盟に日韓両国から議員が参加しております。その会長の森前総理のご理解とご指導を戴き

---

ながら、これまで日韓議員連盟の中の21世紀委員会で韓国と日本におきまして2回ほどこの計画のご紹介をさせていただきました。また自由民主党の外交調査会で2回にわたり当会から先生方におこしいただき、この計画の概要をご説明いただきご理解いただいたこともございます。数年前に慶尚南道の知事を表敬訪問し、巨済島や対馬など現場を視察してまいりました。

この計画は昭和の初めに当時の鉄道省が弾丸列車計画の一環として策定いたしました。皆様の大変なご努力を経まして実現に向けての調査が進展していることは大変喜ばしいことと思っております。この計画が日韓の友好親善に大変重要な役割を持っていることを実感しており、日韓両国の大きな絆になるだけでなく、東アジア経済共同体などの大きな枠組みのステップにも繋がる重要課題と承知をしております。皆様方と共に勉強を重ね、計画が具体化した暁に着工できるだけの準備をしてゆかなければならないと思っております。

これまで韓国側からは、盧泰愚大統領、金大中大統領、現在の盧武鉉大統領3代の大統領が日本の国会において、この計画の実現について提案しておられます。そういった先方の働きかけに応じ、これからは日本側からもこの計画の推進メッセージを出して行かなければならない、そんな状況に今あるのではないかと思います。

これからの進め方ですが、すでにユーロトンネルが開通し、青函トンネルが供用しております。先週も私は青函トンネルの現場を視察しました。大変良好に運用されていること

から今後の日韓トンネルに対する一つの大きな実績として参考になると思います。しかもこれから新幹線を通すことになっておりますので、そのための準備もすでに始まっております。

課題は山積しておりますが問題が非常に大きいので皆様方共々知恵を絞り、この計画が前進することを祈念し、これからも皆様のご協力を得まして大事な任務を全うしたいと思っております。

### **(報告)第2回理事会が行われました。**

東京本部の第2回理事会が昨年12月7日、アルカディア市ヶ谷私学会館で行われた。高橋彦治会長が議長に選出され議事に入り、まず、平成17年度の事業経過が報告された。次に平成18年度事業計画案を審議した。さらに定款第53条（残余財産の帰属）の変更について検討した。

### **(報告)共同研究の最終報告会が行われました。**

昨年12月7日、アルカディア市ヶ谷私学会館で「社団法人大韓土木学会韓日物流システム研究委員会」と当会が進めてきた共同研究の最終報告会が行われた。この調査は韓国側に存在する各種基本情報を調査分析し、日韓トンネル計画を推進する基礎資料とすることを目的とし、平成16年10月5日から平成17年10月4日までの1年間にわたり継続されてきた。報告ではパワーポイントによる研究成果の概略報告の後、李承浩教授（尚志大学）が研究成果に対する質疑に応答した。質疑は韓国南東部から対馬西方海域に連



なる梁山（ヤンサン）断層に関するものが多かった。

### **（報 告）東京本部の第3回通常総会と第3回理事会が行われました。**

東京本部の第3回通常総会と第3回理事会が5月31日、虎の門パストラルホテルで同時開催された。韓国側からは来賓として国際ハイウェイ研究会の尹世元会長、韓日トンネル技術研究会の成百詮会長、国際ハイウェイ研究会の高冠瑞副会長、社団法人韓国防災協会の朴慶夫会長が出席した。高橋彦治会長が議長に選出され議事に入り、まず、平成17年度事業報告があり、①韓国道路交通協会主催の「2005 世界道路交通博覧会」出展、②総合研究開発機構(NIRA)が月刊誌「NIRA 政策研究 9月号」に日韓トンネル計画の論文を発表したこと、③社団法人大韓土木学会韓日物流システム研究委員会との共同研究、などについて報告があった。次に平成17年度の事業会計収支決算が報告され承認された。平成18年度事業計画は、①今年10月ソウルで開催予定の「インフラテック 2006」への出展、②日韓共同研究の推進、③当会ホームページの

充実、などを審議し承認された。次に平成18年度事業会計収支予算案を審議し承認された。定款の変更では、当会の第53条（残余財産の帰属）の変更を審議し承認された。役員の変更では当会初代会長である高橋彦治会長に代わり、野沢太三顧問が会長に就任した（就任の挨拶参照）。

議事終了後、記念講演として韓国の崇實大学校社会学部日本学科の申章澈教授が、「日韓海底トンネル建設論議のための試論的研究」をテーマに約30分間講演した。

#### **【講演要約】**

この場で私が発言する内容は一学者の考えであり、決して特定の団体や組織、あるいは国家の立場を代表したものではないことを念頭においていただければと思います。

**（序 論）** 私は現在論議されている日韓間の海底トンネル建設は、ロシアと中国そして北朝鮮の豊富な資源と労働力を、韓国と日本が持っている高い技術力と豊富な資本力を結合させ、北東アジアはもちろんヨーロッパ各国との物理的障壁を解消し、人類次元での豊かさを創出するという強い確信を持っています。

もし韓国と日本が海底トンネルを通じ陸上交通網で結ばれると、既存の日韓関係の画期的な改善はもちろんのこと、両国が21世紀のグローバル化と地域化の流れに積極的に対応し、また中国とロシアを含む北東アジア地域



---

で新たな巨大経済共同体を形成するにあたって主導的な役割を果たすと考えられます。また韓国の立場からみると、韓国・北朝鮮を包含した朝鮮半島が地政学的な利点を生かして北東アジア次元の物流中心国家と経済共同体の形成で主導的な役割を果たすためには、経済大国である日本の地理的接近性が確保されなければならないと考えます。

**（日韓間の特殊な関係）**近年、海底トンネルの建設が全世界的に一大ブームになっているにもかかわらず日韓海底トンネル建設の論議は少しも進展していないのが現実です。その要因はいろいろな観点から指摘することが出来ますが、私は日韓間の特殊な利害関係と日本の歪曲された歴史認識を初めとする部分も大きいものと理解しています。従ってこのような日韓間の特殊な要素と葛藤の構造、そして相互不信の旧来の関係を清算し、未来志向的な日韓関係を構築する努力の相当部分は日本側が持っているといえます。

**（日韓間の信頼回復策と磁気列車の共同開発）**日韓両国が信頼回復と相互協調関係を通し、未来志向的な関係に反転する方法として、今日、この場で日韓両国が磁気浮上列車（リニアモーターカー）の共同開発の推進を提案します。日本は磁気浮上列車の技術開発のため、これまで莫大な規模の投資をしており、また現在世界最高水準を保有していることは知っています。日本が韓国と力を合わせ、より早く安全・快適な磁気浮上列車を共同開発し日韓海底トンネルで走らせ、またその技術を世界標準化させ、両国が共に全世界の高速鉄道市場を占領できる WIN-WIN 戦略を模索することで、磁気浮上列車を日韓両国の

相互信頼と協力の象徴として育て知恵をあわせることを強く提案しようと思います。

**（まとめ）**日韓間の海底トンネルの建設の意義を3要素にまとめ、今回の講演を終わります。

①韓国と日本の地理的な隔たりを克服し、両国の共存共栄のための基盤を構築します。

②日韓海底トンネルの建設は、韓国民族の念願である南北統一を後押しする契機となり、将来の北朝鮮と日本の関係を画期的に改善させ、北東アジア次元での和解に向けての大きな一歩となります。

③日韓海底トンネルの建設は、議論によってはユーラシア横断鉄道の実現可能性を高め、さらにはアジア～ヨーロッパ間の人的・物的交流の拡大と、相互の関係を密接にする起爆剤になります。

**（報告）ソウルに当会の韓国事務所を設置しました。**

**【住所】** 大韓民国ソウル市江南区駅三洞

702-10 番地 阿南タワー 917 号室

**【電話】** +82-2-2009-2382

**【FAX】** +82-2-2009-2383

**【e-mail】** office@jk-tunnel.or.jp